

鹿児島の昆虫27

昆虫にとっての越冬

昆虫担当 金井 賢一

冬に昆虫を見つけるのは大変です。エサもあまりありませんし、卵を産み付ける柔らかい葉もありません。何より寒くて昆虫にとっては動きにくい季節です。では彼らは消えてしまったのでしょうか？いえいえ。虫たちは必死に寒い時期を乗り切り、暖かい春に生命をつなぐために耐えているのです。

では彼らはどこで冬を越そうとしているのでしょうか？皆さんは寒い日は暖かい日向でゆっくり過ごしたいと思いますね。でも虫たちはちょっと違います。それは、彼らが体温を調節できない変温動物だからです。自分を温めることのできない虫たちは、からだの働きをできるだけ押さえた「休眠」という方法をとります。暖くなるまでは、ずっと眠って過ごすのです。そこで彼らの運命を分けるのが、暖かな冬の日なのです。

虫たちは2月頃の暖かな日に、「春が来た！」と勘違いして休眠からさめると、もう一度寒い日が来たときに死んでしまいます。ですから、虫たちは日の当たらない、寒いところで

休眠しています。安らかな眠りをじゃまされないようにしているようです。このような性質の虫だけが春に命をつなげるので、寒いところに隠れている虫たちが多いのです。

しかしながら、最近鹿児島県本土に上陸してきた虫たちは違います。カバマダラやクロボシセセリなど休眠する性質を持たない彼らは、暖かい日はエサを食べ、寒い日はじっと我慢しています。我慢しきれないほど寒いときには、死んでしまうのです。近年そんな虫

たちが増えてきていると言うことは、鹿児島が暖かくなってきている証拠かもしれません。



リュウキュウアサギマダラの越冬

鹿児島の動物23

食肉目イヌ科 ホンドギツネ

動物担当 山田島 崇文

写真は、昨年10月27日、いちき串木野市で死んでいるのが発見されたホンドギツネです。頭から尾ま



での長さはおおよそ1m、重さはおおよそ5kgでした。同市荒川小学校の児童が登校途中に発見し、本館が引き取りました。

ホンドギツネは、ユーラシア大陸に広く分布するアカギツネの日本亜種で、本州から九州まで分布しています。北海道に生息するキタギツネにくらべ、やや小さいのが特徴です。県内では、長島、出水、大口、薩摩半島南部や大隅半島まで、分布情報がありますが、近年多くの地域で生息の証拠を示す情報が少なくなっています。

ホンドギツネの体色は一般に赤みがかった

黄色で、お腹、ほお、尾の先は白色です。尾は他の動物にくらべて毛がふさふさとしているので、長く太く見えます。食べ物は主にネズミや鳥、昆虫などのようですが、果物なども好むようです。里山から奥山まですんでいて、ときにはトウモロコシ畑を荒らしたり、ニワトリをおそうこともあるようです。

繁殖期は、12月から2月ごろといわれ、1回で2～7匹の子ギツネを産みます。穴掘りが得意で、日当たりのよい明るい林の中や草原などに巣穴を掘って、子育てを行います。巣穴の直径はおおよそ30cm、入り口はたくさんつくられ、内部は複雑な構造となっています。

博物館では、今回のように県民の皆さんからの情報をお待ちしています。ホンドギツネに限らず、いろいろな動物を見つけたり、変化を発見したりしたら、お気軽にご連絡ください。

(電話番号099-223-6050)